

第5期事業報告

自 2024年4月1日
至 2025年3月31日

I. 事業の概要

第5期における我が国のURAを取り巻く状況について、政策的な動きでは国際卓越研究大学と地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)が大きな話題であり、2024年11月に組織会員の一つである東北大学が国際卓越研究大学に認定された。その中で基盤的研究強化の一つとしてURA等の高度専門人材の拡充が示され、大人数の公募が開始されたことは関係者の耳目を集めた。また、2023年度から開始されたJ-PEAKSの2年度目採択大学が決定した。この事業においても、URAの役割は重視されており、優秀な人材の確保に向けて各大学が鎭を削っている。

また、文部科学省科学技術・学術審議会人材委員会のもとに「研究開発イノベーションの創出に関わるマネジメント業務・人材に係るワーキンググループ」が設置され、「科学技術イノベーションの創出に向けた研究開発マネジメント業務・人材に係る課題の整理と今後の在り方」が公表された。この中では、URAを含む研究開発マネジメント人材及び技術職員を、各機関が国際的通用性ある研究を展開していく上で、最大の効果をあげるために研究開発の一翼を担う重要な機能として位置付けている。また、「研究開発マネジメント人材の人事制度等に関するガイドライン(素案)」が公表され、適切な評価、処遇、雇用の確保を組織としての対応を求めている。

また、2021年からRA協議会が実施機関として主導してきた科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」等を通じて構築してきたURAスキル認定制度のうち、2024年度から研修事業が科学技術振興機構(JST)へ移管された。これに伴い、今期は研修の実施に必要な各種会議体及び運営をRA協議会が受託し、JSTが実施するURA研修としてその継続に協力した。一方、認定については引き続きRA協議会も会員である一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構(CRAMS)が実施し、その事務局業務をRA協議会が業務委託として担当した。

さて、RA協議会の取り組みについて振り返ると、第5期は第3期に実施した事業期変更後、初めて4月から翌3月までの1年間として事業を実施した期であり、経費処理も含め1会計年度に準じた対応となった。そのため、各種補助金等との決算が一致し、事業期を通じた財務状況の把握がしやすくなったと言える。事務局を貸しオフィスに移転し、事務局長とそれ以外の職員が遠隔下で対応することとなり、運営上の課題が顕在化したものの、基本的な運営に大きな支障はなかった。これは今後の事務局運営体制のあり方に選択肢を与えるものである。

具体的な活動について見てみると、第10回年次大会を、対面参加を基本とするハイブリッド方式により沖縄科学技術大学院大学（OIST）で開催した。遠方での開催であるため参加者数の減少が懸念されたが、結果として過去最大の参加者となった。スポンサー出展は東京で開催した第9回大会ほどではなかったものの、OISTのご好意により、会場費が大幅に削減されたことやOIST関係者の多大なご協力のおかげで、事業単独での黒字化を初めて達成した。

年次大会を含む各専門委員会の活動も、毎月の開催とする委員会が増えてきており、委員会活動が活性化してきていると言える。その結果として、委員会ごとに新しい取り組みに着手し始めており、協議会全体の活動が会員の主体性に基づくものへと移行しつつある。今後はこうした取り組みにより多くの会員が関与し、業務では得難い人脈やノウハウの獲得につながることを期待する。さらに会員を対象とした実態調査「会員実態調査（会員サーベイ）2024」を実施し、初めて会員の処遇に関する調査項目も設定した。こうした基礎データを共有することで、URA全体の様々な取り組みへ反映していくことが重要である。

そのほか、今期も、上述のJSTの委託事業に加え「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業（SciREX）」を実施した。こうした事業を着実に進めることにより協議会の対外的な信用を高めることに繋がる。

今期は財政基盤の強化の観点で、事業ごとに赤字にならない運営方針に基づく事業実施を前提とした。多くの活動はその前提を踏まえた形で運営されたが、そうでない事業もあり引き続き改善を要する。また、財務基盤の強化の観点で組織会員と賛助会員の増加は重要な点であるが、今期も組織会員4機関、賛助会員2機関が入会した。本協議会が果たすべき役割を充実させ、URAをはじめとする研究開発マネジメント人材のネットワークやスキル向上に向けた取り組みを通して、本協議会の機能強化と財務基盤強化を進めることが引き続き求められる。

各事業の活動概要は次のとおりである。

1. 活動促進事業

(1) 第10回年次大会の開催（年次大会）（参加者数：764名、所属機関数：190機関）

第10回年次大会を、沖縄科学技術大学院大学（OIST）で開催した。対面参加を基本としたハイブリッド方式で実施する一方、口頭発表を再開し、個人発表の機会の充実を図った。当初は沖縄開催のため参加者の減少が懸念されたが、結果として過去最大の参加者数となった。協賛企業については第9回大会から減少し、協賛費収入が減少したものの、OISTのご協力により会場費が生じなかったことから、大会単独の収支は初めて20万円程度の黒字となった。

(2) 新規会員の開拓（理事会）

前期同様、新規会員の獲得に向けた取り組みを進め、2機関が新たに組織会員として入会した。賛助会員についても2機関入会した。引き続き、入会に関する問い合わせが寄せられていることから、RA協議会に関心を寄せる企業等が増えつつある。

(3) 協議会の活動の多角化に向けた検討（理事会）

今期も、協議会活動の多角化のための前提として事務局機能及び財務基盤の強化について理事懇談会等で意見交換を行い、事業ごとに赤字にならない方針で事業運営をする方向で事業計画を立てることなどが共有されたが、一部の委員会では黒字化を考慮しない事業実施が行われており、改善が必要である。また、多角化に伴う事務局負担が増しており、財務基盤と合わせて持続可能な体制整備を考える必要がある。

(4) 会員サービスの拡充（理事会）

今期から組織会員向けサービスの一環として省庁や企業からの要望に応じた説明会の開催・周知を実施した。このような組織会員向けのサービスについては引き続き充実に向けた対応を検討する。合わせて賛助会員向けのサービスについて、副会長を中心に具体的な検討を開始した。

なお、協議会の運営は事務局を含め全て無償で行われていることを踏まえ（一部研修事業の講師等は除く）、会員同士による建設的なやりとりに基づいて共に協議会を作り上げていく意識の醸成が一層求められる。

2. 人材育成事業

(1) URA実務者養成講座の企画・運営開催（スキル）

URA実務者講座<新任編>、<テーマ編>を開催した。

(2) 年次大会スキルプログラム専門委員会セッションの開催（スキル）

第10回年次大会において教育セッションを2つの教育セッションを開催した。

(3) テーマ別勉強会の支援・検討（スキル）

テーマ別勉強会を5件採択・支援した。

3. 情報発信・普及啓発事業

(1) ネットワーキングセミナーの開催（情報）

ネットワーキングセミナーを2回開催した。

(2) 公式SNSの運用指針の検討（情報）

(3) RMAN-Jジャーナル第2号の発行（ジャーナル）

第2号を2024年7月22日に発行した。

(4) 会員実態調査（会員サーベイ）2024の実施

2024年8月ー10月に会員実態調査（会員サーベイ）を行い、2025年3月に報告書を公表した。

4. 連携推進事業

- (1) 年次大会国際専門委員会セッションの企画・運営（国際）
第10回年次大会において国際専門委員会セッションを開催した。
- (2) RA協議会のINORMS加盟団体としての活動への協力（国際）

5. 特別事業

- (1) 安定的な組織運営のための課題検討
理事懇談会において具体的な検討を開始した。

6. その他

- 令和6年度「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材の育成に係る研修」企画・運営業務（科学技術振興機構）
- 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX）共進化実現プログラム（第3フェーズ）「研究支援の基盤構築（研究設備・人材等）のための調査・分析」における「大学の執行部/マネジメント層を対象としたURA機能の自律性（主にキャリアパス）に関する調査」（国立大学法人政策研究大学院大学）

II. 会員状況 2025.3.31 時点（括弧内は 2024.3.31 時点）

組織会員：42 機関（40 機関）

組織内個人会員：579 人（440 人）

組織外個人会員：269 人（216 人）

特別会員：3 人（3 人）

学生会員：0 人（0 人）

賛助会員：10 機関（8 機関）

III. 会議開催状況

【社員総会】

第4期定時社員総会

2024（令和6）年6月28日（金）13:00-13:55

第1号議案 第4期事業実績報告について

【理事会】

第21回理事会

2024（令和6）年6月12日（水）9:30~11:00

- 議案第 1 号 賛助会員の入会について (Digital Sciences 社, ターンイットイン・ジャパン, JNTO)
- 議案第 2 号 組織会員代議員の交代について (福井大学, 芝浦工業大学, F-REI, 量子科学研究開発機構, 広島大学)
- 議案第 3 号 第 4 期事業報告 (案) について
- 議案第 4 号 第 4 期決算 (案) について
- 議案第 5 号 会長特別補佐について
- 議案第 6 号 自律・持続可能な協議会活動の基盤構築のためのワーキンググループの設置について
- 議案第 7 号 組織外個人会員代議員選出にかかる規定の検討について

第 22 回理事会 (書面付議)

2024 (令和 6) 年 8 月 23 日

- 議案第 1 号 組織会員の入会及び代議員候補者について (JAMSTEC)
- 議案第 2 号 組織会員の入会及び代議員候補者について (横浜市立大学)
- 議案第 3 号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について
- 議案第 4 号 国立研究開発法人科学技術振興機構 令和 6 年度「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材の育成に係る研修」企画・運営業務の実施に伴う事業運営, 事業実施に係る謝金支出基準について (案)
- 議案第 5 号 一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会受託事業実施規程 (案) について

第 23 回理事会

2025 (令和 7) 年 2 月 13 日 (水) 15:30~17:00

- 議案第 1 号 組織会員の入会について
- 議案第 2 号 賛助会員の入会について
- 議案第 3 号 組織外個人会員代議員選出にかかる規定の制定及び会則の改正について
- 議案第 4 号 年次大会の参加費等の見直しについて
- 議案第 5 号 年次大会の UNITT との合同開催について
- 議案第 6 号 テーマ別勉強会について
- 議案第 7 号 第 6 期以降の専門委員会の委員長及び委員の選出について
- 議案第 8 号 2025 (令和 7) 年度 JST URA 研修事業及び URA スキル認定機構が実施する認定事業への関与について
- 議案第 9 号 経理規程の改正について

第 24 回理事会

2025（令和7）年2月29日（木）9：00-10：30

議案第1号 組織会員の入会及び代議員候補者について（NICT）

議案第2号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

議案第3号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

議案第4号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

第25回理事会（書面付議）

2025（令和7）年3月12日

議案第1号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

議案第2号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

議案第3号 専門委員会委員について

IV. 専門委員会活動状況

各専門委員会の事業報告は次の通り。

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|---|-------------------------|
| 期 | 第5期(2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | 年次大会専門委員会 |
| 委員会等開催状況(委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| 1) 第10回年次大会(OIST)の運営 2) 第11回年次大会(熊本)の企画、運営 3) 年次大会専門委員会 打合せ等(引継ぎを含む) | |
| 具体的活動内容(委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください) | |
| 1) 第10回年次大会(OIST)の運営 参加者764人、190機関 4/23 セッション実行委員の募集説明会実施(～5/24) 5/下旬、9/下旬、11/中旬 セッション実行委員会 6/3 口頭発表、ポスター募集開始(～8/2) 6/7 セッション審査とプログラム確定 6/17 参加申し込み開始(～10/17) 7/26 予稿集公開 10/16、17 第10回年次大会実施(OIST) 11/1 アンケート〆切 1/9 OIST→熊本大学 引継ぎ式実施 於:熊本 1/30 理事懇談会にて第10回年次大会エグゼクティブサマリー報告済み 2) 第11回年次大会(熊本)の企画、運営 1/9 引継ぎ実施、第11回大会会場(熊本城ホール)予約 3) 年次大会専門委員会 打合せ等(引継ぎを含む) 4/月上旬、5/下旬、9/中旬、11/中旬、1/下旬、2/中旬、3/中旬 3/31 旧委員打合せ 於:東大 | |
| 事業成果と波及効果(上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください) | |
| 1) 第10回年次大会(OIST)の運営 過去最大の規模 参加者764人(現地参加607人)情報交換会360人、190機関 総収入10,706千円、総支出10,108千円、収支598千円 2) 第11回年次大会(熊本)の企画、運営 2025/10/21-22 於:熊本城ホール 参加者数700人目標、情報交換会200-400人 1/9 引継ぎ | |

| | |
|--|--------------|
| 今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年次大会専門委員会 活動インフラを準備していただきたい →Zoom アカウント（定例打合せ用 他） →ビジネスチャット（Google/チャットや MS/Teams など） →ファイル共有（Google/Drive や MS/OneDrive など） | |
| 事業収入総額 | 10,328,000 円 |
| 事業支出総額 | 10,120,784 円 |
| 備 考 | |
| | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--|--------------------------|
| 期 | 第5期 (2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | スキルプログラム専門委員会 |
| 委員会等開催状況 (委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| (1) 毎月1回のオンライン定例打合せ (2) URA 実務者養成講座<新任編>、<テーマ編>の企画・運営 (3) 第10回年次大会 (OIST) における2つの教育セッションの企画・運営 (4) テーマ別勉強会支援の企画・運営 | |
| 具体的活動内容 (委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください) | |
| (1) 毎月1回のオンライン定例打合せ (原則第一金曜 15-17時) 4/5、5/10、6/14、7/3、8/2、9/6、11/1、12/6、1/10、2/14、3/14 実施 (2) URA 実務者養成講座<新任編>、<テーマ編>の企画・運営 <新任編> 5/31-6/6 オンデマンド配信、6/7 対面実施 於：東京海洋大 57名受講、情報交換会 47名参加、事後アンケートも良好 <テーマ編> 2/21 対面実施 於：京大 「URAのための問いのデザイン」(塩瀬隆之) 39名受講、情報交換会 38名参加、事後アンケート極めて良好 (3) 第10回年次大会 (OIST) における2つの教育セッションの企画・運営 「大学執行部へのURAの取り組み」2日目午前2 (米澤、三宅、徳田) 「研究データマネジメントとURA」2日目午後1 (林、矢吹) (4) テーマ別勉強会支援の企画・運営 試行第2期 (2023年4月 ~2024年6月末) にて5つの勉強会の支援 「大学を取り巻くエコシステムとURAを含む支援、役割について考える会」、「生成AIとURA業務」、「選ばれる大学の博士環境を考える勉強会」、リスクマネジメントとコンプライアンスに関する勉強会、「私立・公立大学研究支援研究会」 その後アンケート実施、課題抽出、課題対策の検討 翌期の本番スタートに向けた募集要項、実施要領等の作成 | |

| | |
|---|-----------|
| 事業成果と波及効果（上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ URA 実務者養成講座 <ul style="list-style-type: none"> →会員効果：＜新任編＞、＜テーマ編＞とも会員が興味を持つ内容で満足度も高い ＜テーマ編＞を関西開催にすることで西日本エリアに配慮 →財務効果：会員 5 千円、非会員 1.5 万円で実施。会場も大学施設利用で節約 ・ 年次大会 教育セッション <ul style="list-style-type: none"> →会員効果：2 つの教育セッションとも会員が興味を持つ内容で満足度も高い →財務効果：年次大会専門委員会に依存 ・ テーマ別勉強会支援 <ul style="list-style-type: none"> →会員効果：相互研鑽的なグループ活動に貢献。 年次大会やジャーナルなど活動成果の共有化にも貢献。 →財務効果：試行第 2 期は負担無し | |
| 今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ SmartCore グループでは活発な意見交換ができないため、他のビジネスチャット（Google/チャットや MS/Teams）を提供いただきたい ・ 会員関心度が高い企画の設計が求められている（実務者養成講座や教育セッションのテーマ設定、勉強会の支援内容等） ・ 上記を調査するため RA 協議会会員実態調査のデータ共有をいただきたい、研修に関するアンケート実施を会員に対して実施したい ・ 専門委員会の英語名称の確定を頂きたい（RMAN-J ジャーナルに委員会として記事を執筆した際に支障があった） | |
| 事業収入総額 | 565,000 円 |
| 事業支出総額 | 141,646 円 |
| 備 考 | |
| 2024/2/13 日時点 収入見込 40 万円、支出見込 26.41 万円、収支 +13.59 万円 | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|---|----------------------------|
| 期 | 第 5 期 (2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | 情報発信専門委員会 |
| 委員会等開催状況 (委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| <p>情報発信専門委員会は定例で月 1 回をベースに 1 時間 Zoom にて開催</p> <p>6 月 19 日 第 5 期活動計画の確認と担当割</p> <p>7 月 4 日 第 1 回ネットワーキングセミナーの企画検討 SNS 運用指針策定検討</p> <p>8 月 22 日 第 1 回ネットワーキングセミナーの準備、SNS テスト運用指針策定検討</p> <p>9 月 20 日 第 1 回ネットワーキングセミナーの準備、SNS テスト運用指針策定検討</p> <p>11 月 7 日 第 1 回ネットワーキングセミナー準備、X テスト運用まとめ</p> <p>12 月 5 日 第 1 回ネットワーキングセミナー実施報告の確定。RA 協議会公式 X 運用規程 (案) とテスト運用 (有志での活動) 実施報告 (案) 作成</p> <p>1 月 9 日 第 2 回ネットワーキングセミナー講師決定。RA 協議会公式 X 運用規程 (案) の理事会提案資料の確定</p> <p>2 月 20 日 第 2 回ネットワーキングセミナー準備、RA 協議会公式 X 運用規程 (案) に関する経費確認 第 6 期事業計画案の策定</p> <p>3 月 27 日 セミナー報告書確認 第 5 期活動まとめ、第 6 期への申し送り</p> | |
| 具体的活動内容 (委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください) | |
| <p>(1) 第 1 回ネットワーキングセミナー「地方大学の挑戦—アントレプレナーシップ教育編—」2024 年 11 月 11 日 17:30~19:30</p> <p>-講演 1「ソーシャル・イノベーションの時代における公立大学への期待-地域との協働、大型教育事業との関わり-」/武田浩太郎氏 (宮城大学 事業構想学部 特任准教授)</p> <p>-講演 2「地域から未来を切り開く教育のための論点整理 (私案) -令和時代のイノベーション教育の背景・意味・特長-」/谷田貝孝氏 (宮崎大学 地域資源創成学部 教授)</p> <p>参加者 27 名 開催報告, アンケート結果</p> <p>https://www.rman.jp/network/2025/01/b30a1d0e9eba1be77e750d0e7e97761fb636eb8c.html</p> <p>(2) 第 2 回ネットワーキングセミナー 「ざっくばらんにきいちゃおう、それ持っていた方がよい資格ですか- URA のキャリア形成と資格取得 (知的財産編) -」</p> <p>2025 年 2 月 25 日 17:30~18:45</p> <p>- 講演「知財の分かる URA は一目置かれる？」信州大学 松山紀里子 氏 (信州大学 知的財産室長/准教授)</p> <p>参加者 42 名 開催報告・アンケート結果</p> <p>https://www.rman.jp/network/2025/05/cdda2e893e026565744aa41de659c65a557d21e9.html</p> <p>(3) 公式 SNS の運用指針の検討</p> | |

公式 SNS の運用指針を検討するにあたり、公式 X の運用ポリシー（案）を策定し、年次大会でのテスト運用を提案したが、理事懇提案段階でテスト運用が認められなかったため、RA 協議会アカウントを利用した検証は実施できなかった。有志で X を開設し、年次大会開催にあわせて情報発信を実施し、その検証結果をもとに運用規程（案）をあらためて理事懇にて提案したが、現行の X アカウントは公式 SNS として運用するかどうかといった検討が必要であるという見解が示され、提案受理に至らなかった。有志でおこなった X の運用結果を検証材料として作成した運用規程（案）をもとに、公式 SNS の運用指針について再度提案を行う予定である。

事業成果と波及効果（上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください）

・ネットワーキングセミナー： 年次大会のセッションの規模ではないが、専門的知識や組織での取組を話題に、興味を持つ方々の参加とディスカッションを行い、ネットワーキングを推進した。可能な限り、会員内から話題提供者を募り、経費削減に努めた。

アンケート結果では非会員の参画が第 1 回は 50%、第 2 回は 13%あり、RA 協議会の活動のアピールにつながった。事務職員等をふくめ、RA 協議会の理解と会員メリットの説明、ネットワーキング化に一定の効果があった。いずれも年次大会後の開催となったため会員数拡大に貢献できたかは検証できていない。

今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください）

・RA 協議会公式 X 運用規程（案）の提案については、理事懇に提出後、現 SNS を公式 X とするかどうかという議論がされていないため、運用規程の提案はうけつけられていない。テスト運用の結果と公式 X とする場合に必要な運用規程（案）としてあらためて提案する。

・ネットワーキングセミナーは、ネットワーキング形成を目的とするにはもう少し工夫がいる旨、参加者より指摘があった点をふまえ、セミナーの内容、開催時期を検討する。

・第 5 期は委員数が少なく、委員の活動に負担が大きかったため、担当をきめ、負担の軽減を図る。

| | |
|--------|-----|
| 事業収入総額 | 0 円 |
|--------|-----|

| | |
|--------|---------|
| 事業支出総額 | 5,000 円 |
|--------|---------|

| | |
|-----|--|
| 備 考 | |
|-----|--|

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|---|----------------------------|
| 期 | 第 5 期 (2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | 国際専門委員会 |
| 委員会等開催状況 (委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| <p>第 16 回委員会 2024.4.21 3 月 19 日開催の勉強会のまとめ、第 4 期事業報告書の準備、RA 協議会の国際関連活動についての打ち合わせの説明</p> <p>第 17 回委員会 2024.5.19 第 10 回年次大会の委員会セッション準備</p> <p>第 18 回委員会 2024.6.19 新委員の紹介、第 10 回年次大会セッション準備</p> <p>第 19 回委員会 2024.7.3 勉強会のテーマについて、国際研究交流の現場での課題など</p> <p>第 20 回委員会 2024.10.7 INORMS と委員会の関係について高橋副会長を交えて議論</p> <p>第 21 回委員会 2024.11.25 INORMS 研究評価 WG について</p> <p>第 22 回委員会 2024.12.4 年次大会報告、勉強会準備、INORMS の活動協力の検討、オプザーバー参加について</p> <p>第 23 回委員会 2024.12.18 INORMS と委員会の関係検討、勉強会準備</p> <p>第 24 回委員会 2025.1.8 勉強会準備、INORMS の WG 対応検討</p> <p>第 25 回委員会 2025.2.12 勉強会関係者による開催準備打ち合わせ</p> | |
| 具体的活動内容 (委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください) | |
| <p>1) 第 10 回年次大会 (2024.10.19-20) 国際専門委員会セッションの企画・運営 「外国人研究者受け入れの現状と展望」 講師：神戸大学デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構 特務教授・特命主任政策研究職員 二歩 裕氏 岡山大学研究・イノベーション共創機構 研究推進本部長 宇根山 絵美氏</p> <p>2) 国際専門委員会主催の勉強会 (2025.3.11) の企画・運営 「URA の国際業務を実務レベルで考える」 講師：神戸大学デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構 特務教授・特命主任政策研究職員 二歩 裕氏 東京大学 シニア URA Kate Harris 氏</p> <p>3) RA 協議会の INORMS 加盟団体としての活動への協力</p> | |
| 事業成果と波及効果 (上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください) | |
| <p>年次大会の委員会においては、外国人研究者の受け入れによる大学の国際化への参加者の関心の高さが窺われた。</p> <p>今回は勉強会をウェビナー形式で開催し、参加制限のセキュリティ向上とともに、参加者名簿管理や当日の開催記録を自動化することで前年度より省力化した。内容では国際的プロジ</p> | |

エクトの一環として国際シンポジウムを開催する際の実務の具体例が示され、業務運営に不可欠な URA と職員との密接な協力の必要性が強調され、さらに経理面にまで踏み込んだ情報を参加者限りで提供し、好評だった。

3) INORMS の活動への参加団体としての RA 協議会の活動について国際専門委員会の協力の打診があり、検討の結果、INORMS の研究評価作業部に日本から参加するため研究評価勉強会を発足することに協力した。勉強会は国際専門委員長が発起人となり委員会有志が参加している。今後、日本における研究評価への URA の関与について、INORMS で海外に向けた情報を発信することを目指す。

今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください）

- ・ RA 協議会の活動の英語での情報発信に対する国際専門委員会としての協力について引き続き検討する。
- ・ URA の国際業務についてより広く情報提供を行うことにより、日本の研究機関の国際化に資することを目指し、第 5 期に続き関連の勉強会を開催する。
- ・ 年次大会セッションの内容を広く、英語も含めて情報発信できるようにする。

| | |
|--------|-----|
| 事業収入総額 | 0 円 |
|--------|-----|

| | |
|--------|-----|
| 事業支出総額 | 0 円 |
|--------|-----|

備 考

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--|----------------------------|
| 期 | 第 5 期 (2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | ジャーナル専門委員会 |
| 委員会等開催状況 (委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| <p>○RMAN-J ジャーナル第 2 号の発行に向けた編集委員会の開催</p> <p>①第 9 回編集委員会 (2024 年 4 月 19 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集テーマの投稿原稿の受付状況および原稿の内容の確認。 ・企業広告の応募状況の確認および今後の対応の検討。 <p>②第 10 回編集委員会 (2024 年 5 月 1 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿原稿および依頼原稿の本文の記載方法に関する課題の抽出と対策の検討。 <p>* 第 2 号を 2024 年 7 月 22 日に発行し、冊子 200 部の配布および協議会 HP へ掲載を実施。</p> <p>○RMAN-J ジャーナル第 3 号の発行に向けた編集委員会の開催</p> <p>①第 1 回編集委員会 (2024 年 8 月 8 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 号の発行において抽出した課題および対策の討議：テンプレート、原稿の品質確保等 ・第 3 号の発行に向けた体制およびスケジュールに関する検討：担当チーム制の導入等 <p>②第 2 回編集委員会 (2024 年 12 月 12 日&18 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 号の発行スケジュールと担当チームの確定。特集テーマ以外の構成の検討など。 ・特集テーマ、会員サーベイ WG への対応、および企業広告の募集案内先の検討など。 <p>③第 3 回編集委員会 (2025 年 1 月 16 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集テーマ、特集テーマ以外の記事の分類、投稿および執筆要領の改訂版、アンケートの内容、および企業広告の募集を討議。アンケートは、2 号の意見と第 3 号のテーマ募集。 <p>④第 4 回編集委員会 (2025 年 2 月 26 日&3 月 4 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員サーベイ WG への対応に関する討議。投稿および執筆要項の改訂版の討議。 特集テーマは、「新しい芽を育む分野横断の取り組み」に決定。 ・担当チームの編成を確定 (依頼原稿/投稿原稿/トピックス・企業広告/会員サーベイ)。 <p>⑤第 5 回編集委員会 (2024 年 3 月 25 日) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集テーマに関する依頼原稿の調査状況および同投稿原稿の募集案内文の確認。 ・投稿および執筆要領の改訂版の確定および協議会 HP への掲載準備。 ・トピックスに関する原稿の依頼状況および企業広告の募集案内文の確認。 <p>* 第 3 号は、2025 年 9 月 30 日に発行予定。</p> | |

具体的活動内容（委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください）

(1) RMAN-J ジャーナル第2号として、以下の内容にて発行を完了。

- ・特集テーマ：「若手研究者支援」に関する依頼原稿2件および投稿原稿10件を掲載。
- ・ニュース&トピックス：スキルプログラム専門委員会と京都大学への依頼原稿を掲載
- ・企業広告：賛助会員2団体の企業広告を掲載。
- ・発行日：2024年7月22日。
- ・発行方法：冊子200部を印刷。一部、第10回年次大会にて配布。協議会HPに掲載。

(2) RMAN-J ジャーナル第3号の発行に向けた編集委員会の開催および具体的な活動内容。

- ・特集テーマ：「新たな芽に繋がる分野横断の取り組み」。
依頼原稿：北陸先端科学技術大学院大学の永井明彦特任教授と
早稲田大学の島岡未来子教授に記事の執筆を依頼。
投稿原稿：10件の応募あり。5月16日に審査結果を通知予定。
- ・RMAN-J トピックス：専門委員会の取り組みなどを掲載予定。
- ・RMAN-J 会員実態調査：2022年度に実施した会員サーベイの解説記事を掲載予定。
- ・企業広告：非賛助会員1団体より企業広告の掲載申込あり（2025/5/9現在）。
- ・発行予定日：2025年9月30日。
- ・発行方法（予定）：冊子200部を印刷。協議会HPなどに掲載。

事業成果と波及効果（上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください）

- ・第2号の発行において、特集テーマの設定から投稿原稿の募集・審査および本文の校正などのプロセスを一通り実施することで、編集活動の業務量と課題を把握できた。
- ・アンケートの実施により、ジャーナルに対する会員の要望と期待などを把握できた。

今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください）

- ・投稿原稿の“量”と“質”の確保を両立させる仕組みを確立させる必要がある。
- ・企業や団体等に対する営業活動を強化し、収益構造を改善する必要がある。

| | |
|--------|-----------|
| 事業収入総額 | 200,000 円 |
| 事業支出総額 | 396,727 円 |

備 考

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--|----------------------------|
| 期 | 第 5 期 (2024.4.1~2025.3.31) |
| 委員会等名 | 協議会会員サーベイワーキンググループ |
| 委員会等開催状況 (委員会開催状況を簡潔に示してください) | |
| <p>会員サーベイ 2024 の設計・実施・報告書とりまとめのため、本事業期間内で計 19 回のオンライン会議により、上記を完了した。</p> | |
| 具体的活動内容 (委員会として実施した活動内容について具体的に説明してください) | |
| <p>本サーベイは以下 2 つの目的で実施した。</p> <p>1) RA 協議会会員への情報提供</p> <p>2) INORMS による国際アンケート調査(RAAAP)との連携(比較可能なデータセットの設計)</p> <p>第5期事業期間中は、RAAAP側の新規企画がなかったため、主に2) を目的に、2年ごとに実施予定の会員サーベイ2024の質問項目設計、オンラインアンケートの実施、集計、報告書作成を行なった。</p> <p>尚、本 WG は 2021 年 10 月開催の第 5 回理事会でその設立、運営方針、構成員を承認済みのもの。</p> | |
| 事業成果と波及効果 (上記の活動内容の成果と効果について会員に対する効果及び協議会への財務基盤強化の観点から説明してください) | |
| <p>会員サーベイ 2024 (第 3 回)</p> <p>回答期間：8/1-9/4、年次大会後に再開 (1 週間限定で)</p> <p>送信者数：780 人、回答数 447、回答率 57.3% (前回より 12 ポイント増加)</p> <p>報告書発行 会員限定サイトにて、2025 年 3 月公開 (暫定版速報は 2024 年年次大会にて紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回初めてサラリーに関する質問項目を設けたが、回答率が落ちることなく、有益な情報を得ることができた。 ・報告書は一次集計が主なため、今後そのクロス集計などを行い、RA 協議会ジャーナルなどへの記事掲載により、より広い会員層への情報提供を行う (第 6 期に予定)。 ・スキルプログラム専門委員会の今後の研修内容検討のため、匿名化情報を提供した。 | |

| | |
|---|-----|
| 今後の課題（今期の活動から抽出された課題等があれば記載してください） | |
| <p>・年度計画では当初、特にグーグルアンケート集計後の報告書作成において、見やすいグラフ化とその編集に一定のスキルがある人間が担当してもなお、約 80 時間のコストがかかることから、一部作業外注のため予算 20 万円を計上したが、単年度黒字の大方針を考慮し、今回もメンバによる業務分担により、予算ゼロで事業を完了した。調査の公平性などの観点から、調査報告書単独での発行や広告収入などは不適切であると考え、最低限のコストをかけた事業実施も検討しても良いのではないか。</p> | |
| 事業収入総額 | 0 円 |
| 事業支出総額 | 0 円 |
| 備 考 | |
| | |

V. 第5期運営体制

いずれも 2025 年 3 月 31 日時点のシステム登録上のデータに基づく。

【理事会】

| 役職名 | 氏名 | 所属 | 会員種別 | 備考 |
|-----|--------|-----------------|---------|---------------|
| 会長 | 小谷 元子 | 東北大学 | 組織会員 | |
| 副会長 | 杉原 伸宏 | 信州大学 | 組織会員 | 財務担当 |
| 副会長 | 高橋 真木子 | 金沢工業大学 | 組織外個人会員 | 総務担当 |
| 副会長 | 森倉 晋 | 電気通信大学 | 組織会員 | 事業担当 |
| 理事 | 石田 貴美子 | 同志社大学 | 組織外個人会員 | 情報発信専門委員会 |
| 理事 | 佐治 英郎 | 京都大学 | 特別会員 | |
| 理事 | 柴田 徹 | 東京都立大学 | 組織会員 | スキルプログラム専門委員会 |
| 理事 | 寺本 時靖 | 神戸大学 | 組織会員 | 年次大会専門委員会 |
| 理事 | 岸本 遼 | 鹿児島大学 | 組織会員 | |
| 理事 | 北村 浩三 | 情報・システム 研究機構 | 組織会員 | |
| 理事 | 佐野 恵利子 | 東京大学 | 組織外個人会員 | |
| 理事 | 福田 直子 | 熊本大学 | 組織会員 | |
| 理事 | 藤松 佳晃 | 沖縄科学技術大 学院大学 | 組織会員 | |
| 理事 | 森本 行人 | 筑波大学 | 組織会員 | |
| 監事 | 馬場 忠 | | 特別会員 | |

【代議員（敬称略，五十音順）】※理事兼任者は記載なし

| 整理 番号 | 氏名 | 所属 | 会員種別 |
|----------|--------|---------------|------|
| 1 | 阿部 仁 | 富山大学 | 組織会員 |
| 2 | 池田 雅夫 | 大阪大学 | 特別会員 |
| 3 | 石岡 知之 | 弘前大学 | 組織会員 |
| 4 | 宇根山 絵美 | 岡山大学 | 組織会員 |
| 5 | 江口 弘一 | 芝浦工業大学 | 組織会員 |
| 6 | 垣田 満 | 徳島大学 | 組織会員 |
| 7 | 狩野 幹人 | 三重大学 | 組織会員 |
| 8 | 亀井 雅彦 | 海洋研究開発機構 | 組織会員 |
| 9 | 久野 範人 | 高エネルギー加速器研究機構 | 組織会員 |
| 10 | 黒部 哲哉 | 横浜市立大学 | 組織会員 |

| | | | |
|----|-------|---------------|------------------|
| 11 | 桑田 薫 | 東京科学大学 | 組織会員 (会長特別補佐) |
| 12 | 古宇田 光 | 東京大学 | 組織会員 |
| 13 | 齋藤 勇一 | 量子科学技術研究開発機構 | 組織会員 |
| 14 | 佐宗 章弘 | 東海国立大学機構 | 組織会員 |
| 15 | 塩入 諭 | 東北大学 | 組織会員 |
| 16 | 嶋田 庸嗣 | 理化学研究所 | 組織会員 |
| 17 | 白井 哲哉 | 京都大学 | 組織会員 |
| 18 | 末吉 邦 | 新潟大学 | 組織会員 |
| 19 | 高木 博史 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 組織会員 |
| 20 | 高野 誠 | 大阪大学 | 組織会員 |
| 21 | 玉村 好司 | 東京科学大学 | 組織会員 |
| 22 | 永井 明彦 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 組織会員 |
| 23 | 中嶋 英充 | 日本原子力研究開発機構 | 組織会員 |
| 24 | 中野 悦子 | 北海道大学 | 組織会員 |
| 25 | 中村 慎一 | 金沢大学 | 組織会員 |
| 26 | 中山 俊秀 | 東京外国語大学 | 組織会員 |
| 27 | 西田 篤司 | 千葉大学 | 組織会員 |
| 28 | 西村 薫 | 鳥取大学 | 組織外個人会員 |
| 29 | 野口 康成 | 福島国際研究教育機構 | 組織会員 |
| 30 | 花屋 実 | 群馬大学 | 組織会員 |
| 31 | 原田 隆 | 東京科学大学 | 組織外個人会員 |
| 32 | 樋口 隆信 | 電気通信大学 | 組織会員 |
| 33 | 平田 徳宏 | 広島大学 | 組織会員 |
| 34 | 星合 清隆 | 山梨大学 | 組織会員 |
| 35 | 牧野 茂 | 静岡大学 | 組織会員 |
| 36 | 山口 光男 | 福井大学 | 組織会員 |
| 37 | 矢吹 命大 | 横浜国立大学 | 組織会員 |
| 38 | 王 鴻香 | 長崎大学 | 組織会員 |

【専門委員会等名簿】※2025/3/31 時点

◎委員長（国際専門委員会については委員長代理）

| | 委員会等 | 委員等（長を除き五十音順） | 備考 |
|-------|---------------|---|----|
| 専門委員会 | 年次大会専門委員会 | ◎寺本 時靖（神戸大学） 伊藤 祥遊（筑波大学） 稲穂 健市（東北大学） 古賀 敦朗（鳥取大学） 佐野 恵利子（東京大学） 嶋田 庸嗣（理化学研究所） | |
| | スキルプログラム専門委員会 | ◎柴田 徹（東京都立大学） 池松 克昌（高エネルギー加速器研究機構） 磯部 靖博（山口大学） 植木 千尋（情報通信研究機構） 上島 一夫（山口大学） 臼澤 基紀（東北大学） 垣田 満（徳島大学） 菊池 百里子（東京大学） 北岡 タマ子（お茶の水女子大学） 久保 琢也（信州大学） 三枝 公美子（量子科学技術研究開発機構） 佐々木 健一（関西医科大学） 設楽 愛子（東京海洋大学） 高橋 将太（高エネルギー加速器研究機構） 玉村 好司（東京科学大学） 徳田 加奈（神戸大学） 三和 正人（和歌山大学） 矢吹 命大（横浜国立大学） 横田 秀和（東海大学） 王 鴻香（長崎大学） | |
| | 情報発信専門委員会 | ◎石田 貴美子（同志社大学） 川人 よし恵（大阪教育大学） 荻 多加之（福島大学） 武田 浩太郎（宮城大学） 原田 隆（東京科学大学） 宮田 知加（名古屋芸術大学） | |
| | 国際専門委員会 | ◎西村 薫（鳥取大学） 宇根山 絵美（岡山大学） 北村 浩三（情報・システム研究機構） 坂井 華海（熊本大学） 鈴木 環（日本貿易振興機構アジア経済研究所） 二歩 裕（神戸大学） 村上 舞（東京大学） | |

| | | | |
|---------------------------------|---------------------------|--|---------------|
| | | 米川 聡 (鹿児島大学) | |
| | ジャーナル編集 委員会(第2号以 降) | ◎森倉 晋 (電気通信大学) 明谷 早映子 (東京大学) 稲石 奈津子 (京都大学) 稲穂 健市 (東北大学) 神谷 俊郎 (京都産業大学) 中渡瀬 秀一 (情報・システム研究機構) 二歩 裕 (神戸大学) 平井 克之 (新潟医療福祉大学) 若松 永憲 (順天堂大学) | 第13回理 事会承認 |
| 時 限 付 き 会 議 体 | URA 質保証事業 推進委員会 | ◎森倉 晋 (電気通信大学) 池田 雅夫(大阪大学) 佐治 英郎 (京都大学) 高橋 真木子(金沢工業大学大学院) | 第3回理事 会承認済 |